

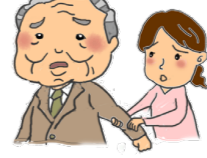




# 高崎市 認知症ケアパス

下記の表は、右に行くほど認知症が進行していることを示しています。認知症を引き起こす疾患や身体状況により、必ずしもこの通りになるわけではありませんが、経過の中で大まかな位置を知り、今後を見通す参考としてください。認知症の進行に合わせ、必要な支援を選択していきましょう。

	自立	認知症の疑い	認知症を有するが日常生活は自立	誰かの見守りがあれば日常生活は自立	日常生活に手助け・介護が必要	常に介護が必要
本人の様子	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康づくりや介護予防に取り組む。</li> <li>社会参加、地域とのつながりを持つ。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>探し物が増える。</li> <li>約束したことを忘れる。</li> <li>不安、いらいら、あせり、抑うつなどがある。</li> <li>同じことを何度も話したり聞いたりする。</li> <li>計算間違いや漢字のミスが増える。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>買い物の際に小銭が払えない。</li> <li>料理が上手くできない。</li> <li>同時に複数のことが処理できない。</li> <li>「物を盗られた」という。</li> <li>気持ちを言葉で上手く伝えられない。</li> <li>やり慣れたことにもミスがみられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>食べ物をあるだけ食べてしまう。</li> <li>季節に応じた服を選べない。</li> <li>服薬管理ができない。</li> <li>電話や訪問者の対応が一人では難しい。</li> <li>慣れない場所だと道に迷うことがある。</li> <li>火の不始末がある。</li> <li>物や人の名前が出てこない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>尿意や便意を感じにくくなる。</li> <li>声かけや介護を拒む。</li> <li>歩行が不安定になる。</li> <li>着替えや食事、トイレなどが上手くできない。</li> <li>近所でも道に迷う。</li> <li>不潔行為がある。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>常時おむつが必要になる。</li> <li>車いすやベッド上で過ごす時間が長くなる。</li> <li>言葉が減り、声かけへの反応が少なくなる。</li> <li>飲み込みが悪くなり食事に介護が必要となる。</li> <li>家族や身近な人のことがわからなくなる。</li> </ul> 
家族の心構え 対応のポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域の交流の場への参加を促す。</li> <li>●認知症を予防するため、規則正しい生活を心がける。</li> <li>●認知症サポーター養成講座に参加して正しい知識や理解を深める。</li> <li>●いつもと違う、何か様子がおかしいと感じたら早めにかかりつけ医や高齢者あんしんセンターに相談する。 (本人に拒否がある時は家族だけで相談するのも一つの方法です。)</li> </ul> 			<ul style="list-style-type: none"> <li>●本人のできることを活かした支援をする。</li> <li>●家族の会や認知症カフェなどに参加し同じ立場の人と話す。</li> <li>●他の家族や身近な人に協力を求める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●本人が生活しやすく安全な環境を整える。</li> <li>●様々な症状が現れてきて介護者が疲れを感じる時は、人の助けを借りる。</li> <li>●戸惑うような出来事が増え、介護が難しくなっていく。介護者が休息する時間も必要のため、介護保険制度などを上手に利用して過度の負担にならないようにする。</li> <li>●困ったことは抱え込まず、高齢者あんしんセンターや担当ケアマネジャーに相談する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●本人が安心できる環境づくりを心がける。</li> <li>●誤嚥性肺炎や床ずれなど、身体的な合併症が起こりやすくなることを理解する。</li> <li>●最期の迎え方について家族で話し合う。</li> <li>●主治医やケアマネジャーなどと相談し、今後の対応を決めておくこと良い。</li> </ul>
予 防	介護予防のために<介護予防教室>					
	みんなで交流するために<ふれあい・いきいきサロン>					
P9	さまざまな活動の場<長寿会・公民館活動・長寿センターなど>					
	通いの場・高齢者の居場所・認知症カフェ					
相 談 P10.13.14	居宅介護支援事業所(ケアマネジャー)・認知症地域支援推進員・若年性認知症支援コーディネーター					
	高齢者あんしんセンター・地域密着型サービス提供事業所・認知症相談					
医 療 P10	認知症初期集中支援チーム					
	認知症疾患医療センター・認知症サポート医・もの忘れ相談医					
かかりつけ医・一般病院						
生活支援 P11	見守り・安否確認<民生委員・ボランティア・高齢者あんしん見守りシステム・はいかい高齢者救援システム(GPS)など>					
	移動の支援<おとしよりぐるりんタクシー・運転免許自主返納勧奨事業>					
	困りごと支援<介護SOSサービス・高齢者ごみ出しSOS・ちょこっと助け隊など>					
金銭管理の支援<日常生活自立支援事業・成年後見制度>						
介護・住まい P12	介護保険サービス					
家族への支援 P13	家族の会・介護者のつどい・電話相談					